

# MUSEUM

ミュージアム・アイズ

Vol.

44

2006 Spring

# EYES

Mm  
MEIJI UNIVERSITY  
MUSEUM

特集

## 博物館発信の講座で 学びはじめ

### 高岡漆器・青貝塗 小箱「枝桜」

鮑貝や夜光貝などの、内側が光る貝殻を彫刻刀等で小さく切りぬぎ、その細片を漆地に貼り付けて、山水や花鳥の文様を表す技法を青貝塗といいます。2005年度の館務実習参加学生による企画展【日本の伝統的工芸品 ささまざまな意匠表現】(▶5頁)の「春」のコーナーにおいて展示します。ぜひ、ご覧ください。



- ◎ 堀口捨己氏・矢島恭介氏の資料が寄贈されました
- ◎ 延岡市でアウトリーチ活動
- ◎ 明治大学博物館  
2006年特別展示室展覧会案内
- ◎ 収蔵室から
- ◎ M2カタログ
- ◎ 来た・見た・聞いた明治大学博物館
- ◎ 博物館友の会から  
「弥生文化研究会」の歩み

明治大学博物館

# 学びはじめ

明治大学博物館では、多くの方に学びの機会を提供するため、博物館入門講座やリバティ・アカデミーでの博物館公開講座を行っています。更に博物館友の会主催の講演会などもあり、毎回知識欲旺盛な参加者で会場は熱気に包まれています。



「伝統工芸は今…漆器の伝統と現在」



「石器の読み描き事はじめ」

## 博物館入門講座

明治大学博物館は伝統工芸を取り扱う商品部門・刑罰器具や古文書を取り扱う刑事部門・考古資料を取り扱う考古部門の三部門から構成されています。収蔵品を教材として、各部門の基礎的な知識を習得する事が出来るのが博物館入門講座です。講師は当館の学芸員が中心ですが、他館の学芸員が講師を担当する回もあります。

少人数制で、講師とコミュニケーションをとりながら講座は進みます。いつもは収蔵庫に保管されている貴重な収蔵品に直接触る事が出来るのがこの講座の特徴です。



「土器の読み描き事はじめ」



「博物館おもしろ百科」

実際に十手に触る受講者↑

It begins to learn in the course of the museum.

## リバティ・アカデミー博物館公開講座

当館学芸員がコーディネーターとなり、学会の最前線のテーマなど、ホットな話題を取り上げるのが博物館公開講座。外部講師を中心に、当館の学芸員が講師を務める事も。「博物館公開講座考古学ゼミナール」は今年の後期で40回を迎えます。



「江戸時代の大名  
—展示絵解で楽しむ譜代大名内藤家の歴史—」

## 博物館友の会主催の講演会



講演会「水谷拓本と新発見の墨本」

聴講者の「こんな話を聞きたい!」という熱意が形になるのが、博物館友の会主催の講演会です。講師は当館館長や副館長、当館学芸員、外部講師と多彩な顔ぶれ。小規模講演からシンポジウムまで開催形態も様々です。

## 受講者の声

「私は「考古学ゼミナール」は大体受講してますね。日本各地の先生が明治大学にいらっちゃって、最新の研究についてお話して下さるでしょう?刺激的ですよ。」と植原さん(写真右)。「初心者が勉強を始めるにはいいよね。今までは江戸時代の事はばかりやっていたけど、今度は違う分野の講座なんかも受けてみようかと思ってね。」と芳野さん(写真左)。「商品部門の入門講座で工芸の基礎的な知識を教えてもらって開眼しましてね」とおっしゃる加藤さん。講座の受講前は工芸の知識は無かったそうですが、今では博物館友の会の工芸の会のメンバーとして活躍中です。



## 2006年前期講座のご案内

- |                   |                                                 |
|-------------------|-------------------------------------------------|
| 博物館入門講座           | 問合先:明治大学博物館事務室 03-3296-4448                     |
| 第44回 今日から始める古文書講座 | 第45回 展示ケースの向こう側【商品】編<br>—日本の伝統的工芸品 What is it?— |
| 第46回 土器の読み描き事はじめ  | 第47回 石器の読み描き事はじめ                                |

博物館公開講座 問合先:明治大学リバティ・アカデミー 03-3296-4423  
寺子屋講座 史料が語る歴史・法・社会 —明治大学コレクションから2—

\*詳細は「明治大学リバティ・アカデミー総合案内2006前期」をご覧ください。

2006年1月、元明治大学教授の堀口捨己氏(1895~1984)と元東京国立博物館学芸部考古課長、矢島恭介氏(1898~1978)の所蔵品が、明治大学博物館の考古部門に寄贈されました。

■ 堀口捨己氏資料

堀口氏は、1949年から1965年まで明治大学工学部(当時)で教授として教鞭をとられ、西欧の近代建築と日本の伝統的な建築を融合させた建築家として著名です。なかでも、和泉キャンパスの第2校舎と第4校舎は、氏の代表的な作品として知られています。今回、ご遺族の堀口方子氏・堀口大井氏ならびに高橋吉子氏から寄贈されたのは、如来像頭部や焼塩壺、金箔を貼った軒平瓦などをはじめとする7点で、考古学にも多くの関心を示していた氏のコレクションの一部です。



如来像頭部(5世紀末~6世紀前半 中国)



一字一石(江戸時代、徳川家重墓出土)

■ 矢島恭介氏資料

矢島氏は1925年に帝室博物館に入り、戦後は東京国立博物館に勤め、日本の博物館学の基礎を築いた一人です。専門の歴史考古学では、武蔵国分寺や増上寺徳川霊廟の調査などに携わり、多大な業績を残しました。ご遺族の斎藤恵子氏より今回ご寄贈いただいたのは、陶質土器・埴輪・和鏡・朝鮮半島の陶磁器などの遺物をはじめ、石碑・鏡などの拓本や記録類など日本・朝鮮半島・中国に関する数百点に及ぶ膨大なもので、研究上貴重な資料です。

延岡市でアウトリーチ活動

去る1月17・18日に明治大学博物館のスタッフが宮崎県延岡市を訪問し、市内の小中学校で授業の一貫としてアウトリーチ活動を行いました。17日は私立尚学館中学校2・3年生119名を対象に、18日には恒富小学校6年52名を対象に、博物館の収蔵資料の説明などを交えて法律や古墳の授業をしました。また、17日夜には、延岡市教育委員会との共同主催で行った2005年度特別展「江戸時代の大名」の終了報告も兼ねた講演会を行い、会場には約100名の市民が詰めかけました。



(写真提供:株式会社夕刊デイリー新聞社)



「道を拓いた女性たち —明治大学専門部女子部・短期大学の歩み—

明治大学短期大学主催  
[2月1日(水)~3月27日(月) / 入場無料]

「明治大学図書館所蔵エジプト学関係貴重書展」

明治大学図書館主催  
[2月1日(水)~3月27日(月) / 入場無料]

「日本の伝統的工芸品 さまざまな意匠表現」

明治大学博物館主催  
[3月30日(木)~4月19日(水) / 入場無料]



「明治大学新収中国石刻貴重拓本展」

明治大学東アジア石刻文物研究所 明治大学古代学研究所 主催  
[4月22日(土)~5月10日(水) / 入場無料]

「熊野信仰~その教化と参詣」

明治大学リパティ・アカデミー 国際熊野学会 絵解き研究会  
人間文化研究機構連携研究「ユーラシアと日本:交流と表象」研究班 主催  
[5月13日(土)~5月21日(日) / 入場無料]

「2005年度新収蔵資料展」

明治大学博物館主催  
[5月27日(土)~6月26日(月) / 入場無料]

「学徒兵と明大生」

明治大学史資料センター主催  
[7月1日(土)~8月21日(月) ※8月10日(木)~16日(水)・19日(土)・20日(日)は休館 / 入場無料]

2006年度特別展  
予告 「子どもの考古学 —考古学から読みとく子どもの姿—」(仮題)  
[10月7日(土)~12月10日(日) 予定 / ※有料]



博物館実習展

「日本の伝統的工芸品 さまざまな意匠表現」

[3月30日(木)~4月19日(水) 特別展示室 / 入場無料]

2005年度に実施した博物館実習のプログラムとして企画立案した展示案を用い、実際に展覧会を開催することになりました。4班に分かれた実習生が、それぞれ、「春」「人の顔の表現」「工芸品に見る獅子」「江戸切子と薩摩切子」というテーマを立て、工芸品の「特徴」「価値」「意味」といったものを表現しました。伝統的なデザインを若者世代の感性がどう捉え直したのか? 日常の道具に表された情緒性豊かな意匠表現の数々をお楽しみください。



# 高岡漆器 TAKAOKASHIKKI

高岡漆器は江戸時代初期の慶長14(1609)年に2代日加賀藩主前田利長が高岡城を築いた際、金沢から連れてきた細工人や近郷から集まった職人に武器、箆笥や膳などを作らせたことに始まると言われています。それに先立つこと4年、金沢から隠居した利長は富山城へ移りましたが、同14(1609)年3月に富山城は焼失してしまいます。利長は、新しい城の最適地を当時関野と呼ばれていた場所に決め、同年9月に関野を高岡と改めたのです。もしもこの時富山城が焼失していなかったならば高岡の地名も高岡漆器も生まれていなかったかもしれません。利長は同19(1614)年5月に53歳で没し、翌元和元(1915)年の「一国一城令」により高岡城は廃城となりましたが、高岡はいち早く商工の町に転換し、築城に際して入町した職人達により次第に漆器産業が確立されていったのです。

現在、高岡漆器の代表的な技法には、「青貝塗」「彫刻塗」「勇助塗」の3つがあります。

「青貝塗」は、江戸初期の京都の名工である柚田清輔に影響を受けて発展したとされる螺鈿の技法です。鮑貝や夜光貝などの内側が光る貝殻を薄く削り出したものを、彫刻刀や針などを用いて小さく切りぬき、その細片を漆地に貼り付けて山水や花鳥の文様を表します。一般に貝を貼り付けた漆器のことを螺鈿と呼びますが、青貝塗では0.1ミリ厚の極薄状の貝の細片を使用していたため、貼り付けた時に下地の黒い漆が透けて貝が青く見えることからこう呼ばれるようになりました。

「彫刻塗」は、江戸中期に京都でこの技法を学んだ辻丹甫によって始

められました。木地に彫刻を施しその上に漆を塗るもので、雷紋や亀甲の地紋の上に牡丹、孔雀や青海波などを繊細に彫り出したものが多くあります。多彩な色漆による彩色が特徴で、立体感と独特な艶を表現することができます。

「勇助塗」は、江戸末期に初代石井勇助が、当時唐物として珍重されていた中国明代の漆器の研究を重ね、新しく生み出した技法です。砥の粉と漆を混ぜた錆漆で盛り上げるように模様を描いた錆絵に、貝や玉石でかたどった花鳥、人物などの立体的な装飾を施すなどの総合技法によって作りだされるもので、繊細かつ雅趣に富んだものです。

これらの技術の結晶が、国の重要有形文化財に指定されている高岡御車山と言います。これは、毎年5月1日に行われる、高岡に春の到来を告げる祭りとして有名な「高岡御車山祭」の際に市中を巡行する山車で、全部で7基あります。由来は天正16(1588)年、豊臣秀吉が聚楽第に後陽成天皇と正親町上皇をお迎えした時に用いられた車が、前田利家に下げ渡され、利家が利長に贈ったものが基であると伝えられています。利長は、高岡の地に城を築き、

町割りをした時、町の繁栄を願ってこの由緒ある車を基に山車を作って曳き廻すことを7つの町に認めて金品を贈りました。以来、これらの町では、競うように山車を作り、その時々地元の名工が、補修・修復して今日に伝えられています。

(吉田 賢治)



写真(左)青貝塗 小箱「枝桜」 中央:勇助塗 銘々皿 右:彫刻塗 色紙箱

## M2カタログ



価格 3,200円  
黒のみ(男女兼用)  
※カフェエプロン風のウエストエプロン(黒、ベージュ:2,600円)や、お揃いのトートバック(黒、ベージュ:1,700円)もあります。  
※日頃の感謝をこめてサンクスキャンペーン実施中!(3月末まで)

M2 goods

ミュージアムショップ「エムツー」で販売しているグッズを紹介するこのコーナー。第6弾は「Mm(エムツー)エプロン」をご紹介します。

Mmエプロンは、あらゆる作業をこなす博物館スタッフから考案されたからこそ完成した、機能性・実用性・デザイン性抜群のエプロン。これからの歓送迎会準備はもちろん、普段の家事やDIYにも最適です。このエプロンは生地が帆布調で丈夫なので、何度洗ってもOK。備え付けのポケットは大中小5つあって何でもしまえて便利ですし、胸あてのひもは肩からずり落ちることがなく作業もラクラク。そして一番のポイントは、裾に入ったスリット。足さばきがいいので、どんなに動き回っても大丈夫!もちろん当館スタッフも愛用中です。あなたもこのエプロンを着て、明治大学博物館の仲間入り!

★売り上げベスト3(12月~2月)~ポストカード(53種類・全90円)編~

- 1位 『ギロチン』
- 2位 『ニュルンベルクの鉄の処女(アイアン・メイデン)』
- 3位 『明治大学記念館 横』

## メディア掲載一覧

### 資料写真掲載

- 資料掲載【「甲州法度之次第」】  
『週刊日本の100人 12号・武田信玄』デアゴスティーニ・ジャパン
- 資料掲載【ナイフ形石器(群馬県岩宿遺跡)】  
『社会の自主学习 歴史』新学社
- 資料掲載【「遠島出船の図」(『徳川幕府刑事図譜』)】▶写真  
奈良本辰也 改訂『日本の歴史』17巻 中央公論新社 写真
- 資料掲載【夏島式土器(神奈川県夏島貝塚)】  
『ポプラディア情報館 衣食住の歴史』(仮称) ポプラ社
- 資料掲載【打製石斧(群馬県岩宿遺跡)】  
『デイリーサピックス(小学校6年社会)』640-01 進学教室サピックス
- 資料掲載【姥山貝塚出土遺物(千葉県姥山貝塚)】【曾谷貝塚出土遺物(千葉県曾谷貝塚)】【堀之内貝塚出土遺物(千葉県堀之内貝塚)】【堀之内貝塚地点貝層断面写真(千葉県堀之内貝塚)】  
『市川の歴史・民俗・自然』(仮称) 市立市川考古博物館
- 資料掲載【「遠島出船の図」(『徳川幕府刑事図譜』)】  
『別冊太陽』平凡社
- 資料掲載【打製石斧(群馬県岩宿遺跡)】【ナイフ形石器(東京都茂呂遺跡)】【槍先形尖頭器(長野県上ノ平遺跡)】【岩宿遺跡 発掘当初の調査現場の写真(群馬県岩宿遺跡)】  
『日本通史~別巻・歴史絵巻』日本通信教育連盟(U-CAN)
- 資料掲載【細石刃(長野県矢出川遺跡)】【ナイフ形石器(埼玉県砂川遺跡)】社会科映像教材(公衆送信)『日本列島と旧石器文化』学習研究社
- 資料掲載【「御成敗目録」】  
『日本の歴史を見る 第3巻 源平争乱と鎌倉武士』世界文化社
- 資料掲載【「今川仮名目録」】  
清水克行『喧嘩両成敗の誕生』(講談社選書メチエ 第353巻) 講談社
- 資料掲載【壺型土器(福岡県板付遺跡)】  
『平成18年度 進研ゼミ 中学講座 中学先取り号』  
『平成18年度 進研ゼミ 難関私立中高一貫講座 中学予習講座』ベネッセコーポレーション
- 資料掲載【石匙(大阪府瓜破遺跡)】【石斧丁(大阪府瓜破遺跡)】  
『進研模試 平成18年度 高3学力テスト 日本史』ベネッセコーポレーション
- 資料掲載【「海陸返り咲こはの手拍子」】  
『浮世絵芸術』第151号 国際浮世絵学会
- 資料掲載【ニュルンベルクの鉄の処女】  
『月刊Magazine ALC』3月号 アルク
- 資料放映【「礫の図」(『徳川幕府刑事図譜』)】【「笞打の図」(『徳川幕府刑事図譜』)】【「火刑の図」(『徳川幕府刑事図譜』)】  
『超歴史ミステリーroman“大奥”完全解明SP』  
テレビ東京 2005年12月23日



「遠島出船の図」(『徳川幕府刑事図譜』)

### 館紹介等の取材・撮影・掲載 (新聞・雑誌・テレビ)

- ◇掲載【明治大学博物館・「江戸時代の大名」展紹介】  
『Weeklyびあ』びあ株式会社
- ◇掲載【明治大学博物館紹介】  
『全国美術館ガイド』美術出版社
- ◇掲載【明治大学博物館紹介】  
『ぎゅっと東京』東京地図出版
- ◇掲載【明治大学博物館紹介】  
『Science & Technology Journal』2月号 科学技術広報財団
- ◇掲載【明治大学博物館紹介】  
『名画・名作とふれあう 東京・首都圏 美術館・博物館ガイド』成美堂出版
- ◇掲載【明治大学博物館紹介】  
『インターネットガイド』15号 デジット株式会社
- ◇掲載【明治大学博物館ミュージアムグッズ紹介】  
『月刊ミュゼ』74号 アム・プロモーション
- ◇掲載【明治大学博物館紹介】  
『オール讀物』4月号 文藝春秋
- ◇掲載【明治大学博物館紹介】  
『東京おもしろ遊び場ガイド'06'07』JTBパブリッシング

### 団体見学の記録 2005年12月~2006年2月

- 【一般】 SNOB会(10名)・明治大学岩手県父母会役員(6名)・千葉県教育研究会柏支会社会部会(35名)
- 【小・中学校】 法政大学第一中学校(13名)
- 【高等学校】 長崎県立佐世保高等学校(3名)・安田学園中学・高等学校(6名)・恵泉女子学園高等学校(20名)
- 【大学・大学院】 駿河台大学芦野ゼミ(23名)・東京女子大学博物館実習Ⅰ履修生(30名)・明治大学文学部文献講読(20名)・明治大学農学部歴史学(13名)

博物館  
友の会から

「弥生文化研究会」の歩み

弥生文化が日本列島歴史上の画期であることは、考古学に興味を持っている人々の間では、遍く知られている歴史認識であると思われませんが、まだ不明のことも多く残されていると思います。一口に弥生文化と申しましても、土器、石器、金属器、稲作農耕を含む生業、墓制その他多くの分野に亘っております。

私達は、これら各分野の基礎的知識を学ぶために、博物館の先生方のご指導のもと、森本六爾氏・小林行雄氏・佐原真氏その他多くの研究者達によって残された論文を読み進めて、それらを記録したり、博物館の学芸員によるお話を伺ったり、或いは弥生遺跡の現地探索などを行ったりして、未知の世界をのぞく楽しさと、その理解の為の努力の必要性も共に満喫しております。

現在、分科会の運営については、忽那敬三学芸員の御指導のもと、自主的に、会員同士の良好な雰囲気の中で話し合い、その結果を順調に進展させておるところです。

今後の予定には、関東地方や四国地方の弥生遺跡探訪、あるいは研究室の弥生遺跡に関する調査報告会の聴講などを計画しており、来年三月には、会員による成果発表なども予定しています。

私達の目指すものは、繰り返しますが弥生文化研究の現状を理解するための基礎知識の把握にあります。

申すまでもなく、明治大学博物館とその周辺は、本学の考古学研究室が永年発掘などで得た貴重な遺物と、関係の専門研究者を教育するための先生方と、研究のための学生達に取り囲まれ、資料といい、私達の疑問に答えてくださる先生方といい、考古学に関心があって、学ぶ楽しさを味わいたい方にとっては、これ以上望めないほどの環境にあるといえましょう。

弥生文化についてご興味のあるあなた、是非、私達の会に参加していただき、遙かに目指すものを共有してみませんか。

例会は、毎月第3水曜日、午後2時から4時まで、博物館会議室で行っております。

〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1  
**【博物館友の会】** 明治大学博物館友の会  
**連絡先** 分科会 弥生文化研究会  
 世話人 土屋 哲旺

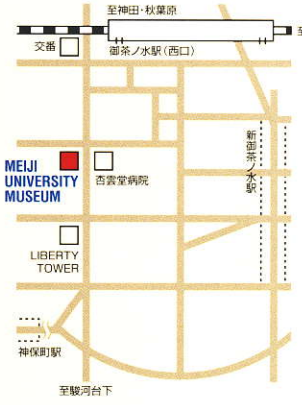
博物館案内

【開館情報】

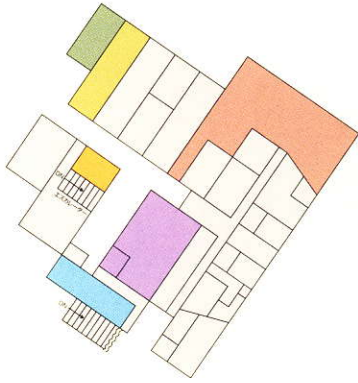
- 開館時間** 10:00～16:30 (入館16:00まで)
- 休館日** 夏期休業日(8/10～8/16)  
冬季休業日(12/26～1/7)  
8月の土・日に臨時休館があります。  
※開館時間・休館日には変更の場合があります。
- 観覧料** 常設展無料  
特別展は有料の場合があります。

【図書室ご利用案内】

- 開室時間** 月・金 10:00～18:30  
(8,9,2,3月は10:00～16:30)  
火～木 10:00～16:30  
土 10:00～12:30
  - 閉室日** 日曜・祝日・大学が定める休日
- ※図書室はどなたでもご利用いただけます。  
 ※蔵書は原則閲覧・コピーのみとなりますのでご了承ください。



**交通機関**  
 JR御茶ノ水駅(中央線)から徒歩5分  
 地下鉄御茶ノ水駅(丸の内線)から徒歩8分  
 地下鉄新御茶ノ水駅(千代田線)から徒歩8分  
 地下鉄神保町駅(都営新宿線・半蔵門線)から徒歩10分



**施設案内 (B1)**  
 図書室  
 体験学習室  
 博物館教室  
 ミュージアム・ショップ  
 特別展示室  
 大学史展示室



ミュージアムアイズ44号の特集は博物館発信の講座です。博物館で学びのきっかけをつかんで、新しい季節に新しい事を始めてみませんか。博物館は全ての人に開かれた学びの場です。あなたの関心次第で世界はどんどん広がっていきますよ。(ひ)